



2022 年度 京都大学医療系一回生対象

早期体験実習 報告書

京都大学医学部医学科・人間健康科学科

京都大学大学院薬学研究科

2022 年度 京都大学医療系 1 回生対象 早期体験実習・報告書

もくじ

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. はじめに ----- | 2 |
| 2. 早期体験実習の目的と概要 ----- | 6 |
| 3. 学生による実習プログラム評価 ----- | 12 |
| 4. 受け入れ医療機関からのフィードバック ----- | 22 |
| 5. 協力医療機関一覧 ----- | 25 |
| 6. 編集後記 ----- | 26 |

1. はじめに

早期体験実習Ⅰは、京都大学医学部医学科・人間健康科学科・薬学部の一回生が参加する多職種連携教育として2013年度にスタートしました。今年度も、医療機関及び医療者の皆様のご協力の下、学生たちは未来の医療者の土台形成につながる体験をさせていただきました。お世話になった皆様に、心から感謝申し上げます。

2022年度も、コロナ禍のために病院に伺って学修するという実習形態は断念せざるを得なくなりました。しかし、入学したばかりの学生たちにとって、医療についての知識や経験がほとんどなく、「将来どのような医療者を目指すのか」「何のために大学で勉強するのか」などの点で学ぶ点は大きいと考え、今年度もコロナ禍で何ができるかを考えながら昨年度からの改善を目指して実施しました。

早期体験実習では、①自分の目指す医療者への理解、②医療での多職種連携への理解、③患者の視点からの医療への理解の三点を柱としています。病院に伺うという手段はとれませんでした。たくさんの病院、たくさんの職種の方々の協力を得て、医療現場や医療プロフェッショナルたちの仕事にビデオやZoomでの対話を通じて触れることができました。そのなかで医療者としてのやり甲斐と厳しさを理解し、今後の学部生活でどのような医療者を目指し、何を学ぶべきかを掴んでくれたと思います。

病院やクリニックの医師をはじめとする職員の皆さまには、コロナで大変な困難のなか、新生のためを思っていただき、ビデオの準備やオンラインでの語りなどきめ細やかなご指導をしていただきました。ご協力に、改めて深く感謝致します。

2023年3月

京都大学医学部長

医学教育・国際化推進センター長

伊佐 正

昨年も、医学部人間健康科学科の学生を、早期体験実習に受け入れて下さり、心より感謝申し上げます。一昨年に引き続き、COVID-19対策で、大変な1年間でしたが、その中で、オンラインで実習を行っていただいた医療機関の皆様、医学教育・国際化推進センター関係者の皆様に、御礼を申し上げます。

医学部人間健康科学科は、組織改革、入試改革を行い、医療専門職資格を持たない学生も卒業する総合医療科学コースを新設し、昨年、第1期生の多くが大学院に進学いたしました。たとえ、将来、医療専門職資格を持たない学生にも、医学医療にかかわる研究や仕事を続けていくうえで、医学を学び始める時期での早期体験実習は、強い印象を残したと思います。また、これから医学、医療を学んでいく強い動機付けとなり、将来自らが目指す医療人について考える機会になることを期待しています。

今後も医学部医学科、薬学部と合同で行っていただく、早期体験実習は、自らの体験を、他の職種を目指す学生さんたちと語り合うことで、視野と人間関係を広げることを期待しています。

学生の皆さんが、他では得がたい貴重な体験をさせていただいたことを、本誌を拝見して改めて強く感じました。COVID-19パンデミック期間中にも関わらず、このような機会を実現していただきました関係各位に、心より御礼を申し上げます。

2023年 3月
人間健康学科長
足立壯一

京都大学薬学部では、早期体験実習の一環として、1年次夏季に「多職種連携医療体験実習」を実施しています。

「多職種連携医療体験実習」では、以下の3つの目的を掲げています。

1つ目は、医療機関における実習を通じ、患者とコミュニケーションを取ることで患者の視点から見た医療、病院とは何かを理解することです。これから薬学を学び薬剤師や創薬研究者となる上で、医療現場を知り患者側の立場に配慮できる心を養い、医療に関わる一員としての自覚を高められることを期待しています。

2つ目は、社会における薬剤師の役割や職能を体験的に学び理解することです。医療現場で薬剤師が抱える課題や問題点を知り、将来の薬剤師のあり方やこれからの学びの目的と対象を考えるきっかけになることを期待しています。

3つ目は、医師や看護師の職能と役割について、観察やインタビューを通して知り、多職種が連携してどのように医療を支えているかを理解することです。他の医療者の視点を感じ、チーム医療の中で薬剤師が担うべき役割や習得すべき能力とは何かを考えることを期待しています。

実習後には、医学部医学科・人間健康科学科の学生と合同で「事後ワークショップ」を開催します。事後ワークショップでは、学生同士が実習先での体験について意見交換を行い、上記3つの目的についての一層の理解を育んでいます。他の医療系の学生との協同作業は、様々な職種・部署から成り立つ医療現場や製薬企業など将来の活躍の場で、異分野・異業種による創発的な議論の進め方を考える第一歩にもなっています。

2022年度は一昨年度、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、医療現場での実習を行うことが適いませんでした。しかしながら、医療現場の動画やZoomオンラインセッションを通じて、多くの医療機関の先生方から学生の教育・指導を頂きましたお陰で、学生は医療機関の先生方にふれあい、多くのことを感じ学ぶことができました。先生方の献身的なご支援とご厚情に深く感謝申し上げます。

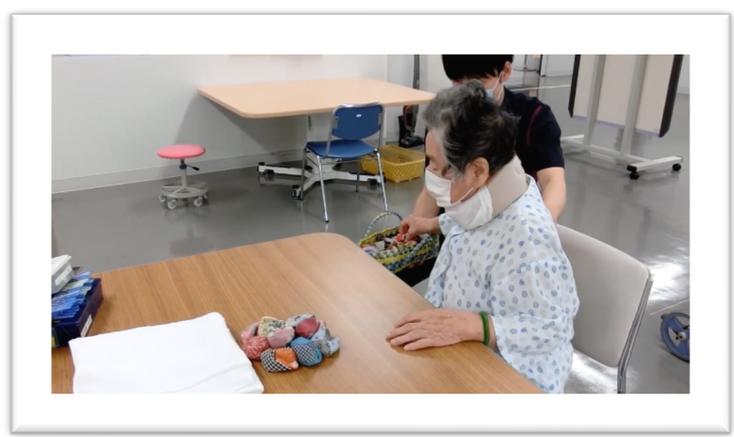
2023年 3月
京都大学大学院薬学研究科長
竹本佳司



10:00
看護ケア
清拭・おむつ交換
口腔ケア・



血液検査部門では、医師と血液像を見たり、マルク（骨髄像）を一緒に読んだりしています。



2. 早期体験実習の目的と概要

本実習は、旧「外来患者支援ボランティア実習」を改編して2013年度から行われていたものであり、京都大学医学部医学科及び人間健康科学科、薬学部の一回生を対象としています。今年度は、医学科112名、人間健康科学科5名、薬学部12名が参加し、全国の21の病院のご協力をいただき、実習をさせていただきました。今年度も新型コロナウイルスの影響のため、各医療機関に作成いただいた動画による学習とZoomを用いたオンラインセッションによる実習となりました。

今年度の早期体験実習の目的は、次の3つにあります。

1. 医療者の仕事を理解する

自分が目指す医療者の仕事について、自分で調べたり、様々な病院の医療者からのメッセージをもとにして、どのような医療者・研究者になりたいかを考えます。

2. 医療における多職種連携を理解する

学生は、将来医療者として協働する他職種がどのような仕事をしているのか、どのようにしてチーム医療に取り組んでいるのかを理解することを目指します。このことを通して、自分が目指す医療者に何が求められているのかも掴むことを目指します。

3. 患者の視点から、医療・病院を理解する

社会や患者の視点からみた医療・病院とは何かについて、興味や問題意識に沿って調べたり、他の学生との対話を通して深めます。

これらの目的をもった実習を通して、学生には、高校生から医療専門職者の卵へと「移行」してもらうこと、すぐれた医療専門職者になるためにはどのような学習・成長が自分には求められているのかを、実感として理解してもらうこと、を期待しています。

以上の目的及び意図をもつ本実習プログラムは、次ページにあるスケジュールに沿って進められます。「Zoomセッション」や「事後ワークショップ」などの機会に、医学科・人間健康科学科・薬学部の学生が「多職種グループ」を編成して、実習を通して得たことや考えたことを共有し、上記3つの点について理解を深められるように工夫しています。

早期体験実習スケジュール

| | |
|-------|---|
| 5月 | 第一回 事前ガイダンス (実習目的の共有、「私の実習目標」の作成) |
| 6月-8月 | 自己学習 (「私の実習目標」に関連したテーマについて調べる) |
| 7月 | 第二回 事前ガイダンス (動画視聴の案内、医療者への質問の検討) |
| 7月-8月 | 医療現場の動画による学習 (各医療職やチーム医療など42本の動画を視聴) |
| 8月-9月 | オンライン (zoom) での実習の実施 (現場の医療者との対話や質疑応答) |
| 9月末 | 事後ワークショップ <ul style="list-style-type: none">• 課題レポートを持参し、グループで成果発表• チーム医療についてのグループ・ディスカッション |

医療現場の動画による学習

17 病院から合計 42 本の学習用動画を提供いただきました。動画の長さは、5 分～25 分で、医師、看護師、薬剤師、検査技師、レントゲン技師、リハビリ職（PT/OT/ST）、チーム医療に関するものをそれぞれの医療機関にご協力いただきました。昨年度、臨床検査技師や診療放射線技師、チーム医療に関する動画が少なかったことを踏まえて、新たに 15 本の動画を追加しました。

<医師> 7 本 ※学生はいずれか最低 2 本の動画を視聴

- 【兵庫県立尼崎総合医療センター】医師動画
- 【兵庫県立尼崎総合医療センター】消化器外科医師動画
- 【天理よろづ相談所病院】医師の働き方
- 【倉敷中央病院】研修医採用動画
- 【市立島田市民病院】医師動画
- 【滋賀県立総合病院】医師編
- 【茨木病院】研修医の一日

<看護師> 5 本 ※学生はいずれか最低 2 本の動画を視聴

- 【兵庫県立尼崎総合医療センター】紹介動画（看護師）
- 【倉敷中央病院】看護部のご紹介
- 【仁和診療所】看護師の仕事
- 【市立島田市民病院】看護師動画
- 【豊岡病院】看護部紹介動画

<薬剤師> 10 本 ※学生はいずれか最低 2 本の動画を視聴

- 【天理よろづ相談所病院】薬剤部プロモーション
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（病棟薬剤師の 1 日）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（安心の監査システム）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（調剤のいま）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（曝露しない抗がん剤調製）

- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（救急センターでの薬剤師の活躍）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介(手術室での薬剤師の活躍)
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（若手薬剤師にインタビュー）
- 【仁和診療所】薬局薬剤師の仕事
- 【豊岡病院】薬剤部紹介動画

<臨床検査技師> 2本 ※学生は2本とも視聴

- 【滋賀県立総合病院】臨床検査編
- 【豊岡病院】検査技術科紹介動画

<診療放射線技師> 4本 ※学生はいずれか最低2本の動画を視聴

- 【京大病院】放射線部紹介動画
- 【京大病院】放射線部診療放射線技師動画
- 【豊岡病院】放射線技術科紹介動画
- 【天理よろづ相談所病院】放射線技師部門紹介

<理学療法士/作業療法士/言語療法士> 5本 ※学生はいずれか最低2本の動画を視聴

- 【京大病院】リハビリテーション部紹介
- 【仁和診療所】診療所リハビリテーション
- 【滋賀県立総合病院】リハビリテーション
- 【豊岡病院】リハビリテーション科紹介
- 【京都桂病院】急性期リハビリテーションにおける臨床と研究

<チーム医療> 3本 ※学生はいずれか最低2本の動画を視聴

- 【京都桂病院】PCU_チーム医療動画
- 【日本バプテスト病院】多職種連携（発熱外来）・小児専用発熱外来紹介
- 【大津赤十字病院】働く人たち（教えて！チーム医療）

<病院紹介> 4本

- 【大阪府済生会野江病院】実習用動画
- 【金井病院】病院紹介
- 【大坂赤十字病院】病院紹介

- 【高槻赤十字病院】 病院紹介

<その他> 2本

- 【神戸西病院】 相次ぐ看取り 押し殺す感情 神戸・西市民病院レッドゾーンルポ
- 【三菱京都病院】 身体と心の痛みを取り除き、がんと向き合い、よりよく生きるためのケア



オンライン（zoom）での実習の実施

9 病院の先生方にご協力いただき、各回 14 名程度の学生が参加して、医療現場のことや働き方のことなどの質問にお答えいただきました。

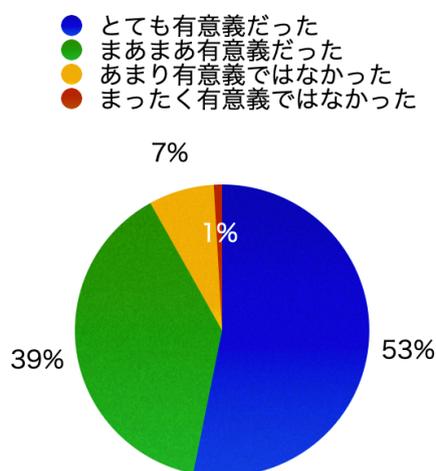
| 日程 | 時間 | 病院名 | 所属 | 担当の先生 |
|----------|-----|-----------------|-------------------|--------|
| 8/24 水曜日 | 17時 | 滋賀県立総合病院 | 消化器内科 | 松村和宜先生 |
| 8/26 金曜日 | 17時 | 淀さんせん会金井病院 | 総合診療科 家庭医療 | 和田幹生先生 |
| 8/30 火曜日 | 14時 | 日本赤十字社和歌山医療センター | 放射線診断科部長兼教育研修推進室長 | 梅岡成章先生 |
| 8/31 水曜日 | 15時 | 京都桂病院 | 緩和ケア科 | 清水正樹先生 |
| 9/1 木曜日 | 15時 | 大津赤十字病院 | 副院長・消化器科 | 河南智晴先生 |
| 9/8 木曜日 | 10時 | 大阪府済生会茨木病院 | 消化器内科 | 金村仁先生 |
| 9/9 金曜日 | 13時 | 高松赤十字病院 | 院長・心臓血管外科 | 西村和修先生 |
| 9/12 月曜日 | 14時 | 枚方公済病院 | 救急科 | 竹中洋幸先生 |
| 9/13 火曜日 | 16時 | 大阪赤十字病院 | 副院長兼消化器外科部長 | 森章先生 |

3. 学生による実習プログラム評価

(2022年9月26日実施 授業評価アンケートから)

1. 実習全体を通して、今回の実習は、あなたの学びにとってどれくらい有意義でしたか。

【全体】



【概要】

オンラインでの実習ではありましたが、大半の学生が有意義だったと振り返っていました。特に Zoom や事後ワークショップを通して、いろいろな人の意見を聴きながら、様々な職種や自分の将来のこと、医療に関する視点などを学べたという人が多かったです。

一方で、事後ワークショップを対面形式に戻したものの、議論が深まりきらなかったという意見もみられました。現場でのリアルな体験がない中でのディスカッションは抽象的な議論にとどまったり、学生のモチベーションにも関わる点が課題でした。Zoom での対話は有意義だと感じていますので、振り返りの機会は検討していきます。

- ✓ 将来の自分の医師像について具体的に考えるきっかけになった。
- ✓ 今までちゃんと病院の様子を見ることはなかったので、将来の実感が持てた

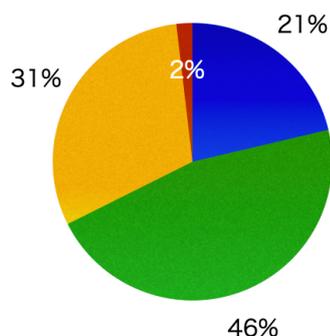
- ✓ 社会福祉士等も含め、いろいろな医療者の実態を知れた。
- ✓ 詳しいチーム医療について学べた
- ✓ 現場の先生に話を伺える機会は貴重
- ✓ ただ漫然と日々を過ごしているだけでは得られない、直接濃いお話をいただけたこと、考える機会をいただけたことが大きかったから。
- ✓ zoom セッションが総合診療医を知るきっかけになった。また、事後ワークショップを通して、チーム医療の課題に関する考えを深めることができた。
- ✓ 他の zoom セッションで得られた学びや他の人たちの医療に対する考え方や姿勢を知ることができて、今まで自分にはなかった考えや視点を持つことができたから。
- ✓ グループの人が学んだことが一つの問題提起につながり、その問題を多角的にみることができた

- ✓ zoom セッションから学ぶことは多かった一方で動画では特別な経験ができたわけではなかった。
- ✓ 他の学生と普段真面目に医療について議論する機会は少ないため、振り返りで他者の意見を聞き、質問できたのは有意義な機会だった。一方で、やはり現場のイメージがつきにくいために抽象的な議論に終止してしまう場面もあったため、もう一步踏み込んだ話ができればよかったかなとも思う。
- ✓ 面白い考え方は散見されたが、問題として表面的なものが多く、実際に臨床の現場で役立つような学びとは乖離があると考えられたから。
- ✓ 自宅での自主学習がかなりの割合を占め、特に「早期体験」をしていないにも関わらず、わざわざ対面で集まらせ、誰も本気になっていない状態でグループワークをさせるのは、学生も教員も時間の無駄だと思います。
- ✓ 病院に行き実際の空気を感じられなかった
- ✓ 実際に行ったわけではないので理解が不足した業種があった。
- ✓ ズームで話を聞いても実感がほとんどないから
- ✓ 医学科以外があまりおらず意見が深まらなかったから。

2. 病院との Zoom セッションにはどのくらい積極的に参加できましたか？

【全体】

- かなり積極的に参加できた
- まあまあ積極的に参加できた
- あまり積極的には参加できなかった
- 全く積極的に参加できなかった



【概要】

オンライン（zoom）セッションでは、多くの学生が「とても積極的に参加できた」「まあまあ積極的に参加できた」と回答しましたが、「あまり積極的には参加できなかった」という学生も 31%いました。あまり積極的に参加できなかったという学生は、昨年度よりも多かった点がやや気になります。オンラインゆえの発言しにくさに配慮して、一人一つは質問できるようにファシリテーターの方で発言を求めるなど工夫しましたが、各自が発言できた反面、受け身に感じた学生も多かったのかもしれませんが。興味や問題意識をもっている学生は多く、大半の学生には現場の声を聴ける機会として積極的に学べていました。

- ✓ 初めて病院の方の実際の話を知ることができたので、貴重な機会だと思ったから
- ✓ 先生の熱意を感じた。学生との zoom セッションに応じてくださるという優しさに感激した。
- ✓ 話が興味深かったから。
- ✓ 救急に興味があったから
- ✓ 積極的に質問できた。具体的には、シーリング制度・新専門医制度・研修医制度などについてうかがえた。
- ✓ 医師のワークライフバランスについてどうしても聞きたかったから。

- ✓ 病院の担当している部分（プライマリケア）について興味を持っていたから。
- ✓ 病院の方が答えにくい質問にも丁寧に対応して下さったから。
- ✓ あらかじめ動画を視聴し、質問を見直しておいた。また、セッション中心に残った言葉や学んだことを書き留めながら参加したため。
- ✓ 個人的に良い質問だというものを zoom セッションの中で考え出すことができ、実際に質問できた。
- ✓ 事前いくつかの質問を提出し、疑問を解消できたから。
- ✓ 疑問点が明確にあったから。
- ✓ 折角の機会なので質問しないのは勿体無いとおもったため。
- ✓ 病院側の皆さんの雰囲気や和やかで緊張がほぐれたから
- ✓ 薬剤師長さんが親切に質問に答えて下さったグループの人が学んだことが一つの問題提起につながり、その問題を多角的にみることができた

- ✓ zoom により、積極的に質問しづらい雰囲気だった
- ✓ Zoom での開催がゆえ質問内容を上手く言語化出来なかったから
- ✓ 形式上受身になることが多かったから。
- ✓ zoom セッションに参加する前に十分に質問を考えることができていなかったから
- ✓ 話すのに緊張したから。zoom で話を聞くだけで実習にしている実感がわかなかったから。
- ✓ 音声の不調

3. 病院に協力いただいた実習（動画視聴・zoomセッション）を通して、その内容や対応で良かった（勉強になった、興味深かった）と感じたことは何でしたか？

【概要】

学生が学べたことが多岐にわたりました。自己学習を通して事前に調べたり、問題意識を明確にしていた学生はそのことを Zoom などでも深められたと思いますし、様々な観点の学生の質問に現場の先生方が答えてくださった結果だと捉えています。先生方のお話を通して、特に、チーム医療、他の職種へのリスペクト、プロフェッショナリズム、患者さんを見ること、働き方改革などへの気づきが伺えました。

- ✓ チーム医療について詳しい知識をもち、病院での医療について具体的に知ることができた。
- ✓ チーム医療(ハートチーム)の話
- ✓ コロナ禍におけるチーム医療の難しさ
- ✓ 桂病院の緩和ケアの動画がチーム医療に関して様々なことを語ってくださっており、とても参考になった
- ✓ チーム医療を行ううえで医師が心がけるべきことを理想論からというよりも実践的な視点から話されていたこと。
- ✓ 医師、看護師、薬剤師が実際に助け合い、リスペクトしあって最善の医療を追求しているのが感じ取れた。
- ✓ チーム医療において、他職種の専門性に対して完全には理解していないからこそその相互リスペクト、というお話がとても印象に残った。
- ✓ 看護師の方たちの業務について学べたこと
- ✓ 薬剤師長さんの、将来決定の仕方など
- ✓ 医師以外の職種の業務内容を学ぶことができたこと
- ✓ あまり馴染みの無かった、社会福祉士の方の仕事内容を zoom セッションで直接伺えたのが良かった。
- ✓ 各職種の方の意見を聞くことができたこと。
- ✓ 一つの質問に対して、医師、看護師、薬剤師の3人がそれぞれの視点で答えていたこと。
- ✓ 直接意見をうかがえること。インターネットでさまざまな情報を手に入れられる現代で、本当に現場の人が何を思っているのか、双方向でコミュニケーションできることの意義は非常に大きいと思う。
- ✓ 具体的な現場でのコミュニケーションについて

- ✓ 職種間でしてほしいこと、自分の信条などが聞けた
- ✓ 現場の実情なども含めて、とても分かりやすくまとめられていた。
- ✓ 緩和ケアの内容
- ✓ 家庭医療について学ぶことができた。
- ✓ 将来就く職業としてはイメージしにくい総合診療医の仕事を知ることができ、視野が広まったことが良かったと思いました。
- ✓ 病院は規模が大きいほど良いと思っていたが中規模病院は中規模病院なりの良さがあるというのが勉強になった。
- ✓ 「病気より患者さんに興味を持ちなさい」という医師の言葉が印象深かったです。
- ✓ 病気中心になりがちだけど、あくまでも相手は患者さん(人間)であること
- ✓ ロボットはあくまでロボット、メインは人間
- ✓ ロボットを使った手術の映像は圧巻だった
- ✓ 医療者には長期的な視点が必要だということ。
- ✓ プロフェッショナリズムのお話が非常に興味深かったです。
- ✓ 医療者の精神面
- ✓ 医師の働き方改革
- ✓ 医療者のリアルな生活がわかったこと
- ✓ 学位取得と臨床を両立するためのキャリア形成の一例を聞いた
- ✓ 留学についてたくさん触れていただき、留学しようとしている自分にとっては勉強になった。
- ✓ 医師になるまでの重要なことや、大学生のうちから気にかけることを教えていただけたこと。
- ✓ 研修医の1日等の、自分の近い将来の話について知ることができたのがよかった。
- ✓ 話しやすい雰囲気だった
- ✓ 質問に丁寧に回答していただいたこと。
- ✓ やはり話し合いの場と言うのは必要であると感じた。
- ✓ 自分の知らなかった観点から医療現場を見ることができるようになったことそれぞれの職種の一日に密着した動画が勉強になりました。

4. 病院に協力いただいた実習（動画視聴・zoomセッション）でよくなかったと感じたことは何でしたか？改善してほしいことなどもあればお答えください。

【概要】

動画の音声聞き取りにくい部分や Zoom での通信トラブルなどは、現場でのご対応ゆえにある程度は仕方がない面もあると思います。医学科の学生が多いこと、Zoom にお越しいただくのが医師であることから、医師に関する質疑応答が中心になりがちなのはたしかに改善点の一つかもしれません。他職種に参加いただけた Zoom セッションでは、いろいろな視点からのお話も伺えたので、可能であればまた様々な職種の話を伺える機会にしていただければと思います。対面で実習をしたかったという点については、新型コロナウイルスの状況を見極めながら、そろそろまた実施方法を再検討できればと考えております。

- ✓ 動画は、いかんせん量が多いので、僕含め大半の学生は流し見になると思います。
- ✓ さまざまな診療科の紹介の動画があったら、さらに学びが深まったように感じる。
- ✓ 内容が被ってるものが多い
- ✓ 研修医の 1 日をまとめたビデオや研修医の方がその病院の良さを語るビデオがあったが今回の実習の趣旨に合わないのではないかと感じた
- ✓ 画像があらかった
- ✓ 一部の動画で、雑音がひどくて話が聞きにくかったものがあるので、これは改善してほしいです。
- ✓ 仕方ないことではありますが、音声聞き取りづらい動画があったこと。
- ✓ 専門用語についての解説がなく自分で調べる必要があったこと
- ✓ 手技に関する説明は難しかったが、限られた時間では仕方がないと思う。
- ✓ zoom セッションの冒頭の説明は動画とほぼ同じだったのでどちらか一つで良かった。zoom では質疑応答などに集中しても良かったと思う。
- ✓ zoom だったので話の具体的な理解が難しいと感じた
- ✓ zoom の接続が途中で乱れた場面があったので対面が良かったと思った。
- ✓ 病院側の進行がスムーズでなかった
- ✓ 質問ベースであったこと。
- ✓ 積極的に質問できる雰囲気が活かせてなかったと思う。
- ✓ 質問の時間をもう少しとって欲しかったです。
- ✓ zoom セッションでお一人からしか話が聞けなかったこと(複数人いれば職場の雰囲気もわかりそう)

- ✓ 医師に関しての方がメインで、他の職種のことについてあまり聞けなかった。
- ✓ 同席していた方に看護師の方と療法士の方がいたが、その方は質疑応答の時に話すだけだったので、それぞれの職種に主眼を置いた話があればなおよかったと思う。
- ✓ 栄養士の仕事の内容も聞いてみたかった
- ✓ できれば複数の zoom セッションに参加したかった。
- ✓ 薬学部や人間健康科の学生がもう少し多ければより多様な議論ができたと思いました。
- ✓ せっかく現場の方々の話を聞けるのに、現場の医療従事者でなくても答えられるような質問が多く見られたのが残念でした。
- ✓ 質問者の下調べや意識の低さ
- ✓ 予定時間を超過したこと。
- ✓ 話が長かった。
- ✓ 短かった
- ✓ 用意した質疑応答に答えていただけなかった
- ✓ 人によっては質問しないままで終わってしまったり、来ない人がいたりするのは残念だった。
- ✓ 時間の制約もあって実際の仕事現場を見ることがほとんど出来なかったこと。
- ✓ zoom セッションで、質問に答えながら病院ツアーなどして、もっと以前の早期体験実習に近い形でやりたかった
- ✓ Zoom セッションで質問するだけだったので実際の医者 of 1 日をカメラを通して見学するなどの方がわかりやすかったです
- ✓ やはり zoom で肌感が伝わりづらかった
- ✓ 現場からどうしても距離を感じてしまう点
- ✓ 対面の方がやりやすい
- ✓ 仕方が無いことだが実際に病院に行きたやはりオンラインということもあり、実感は湧かなかった。
- ✓ 実際に病院に行く機会がなかったのが残念でした。

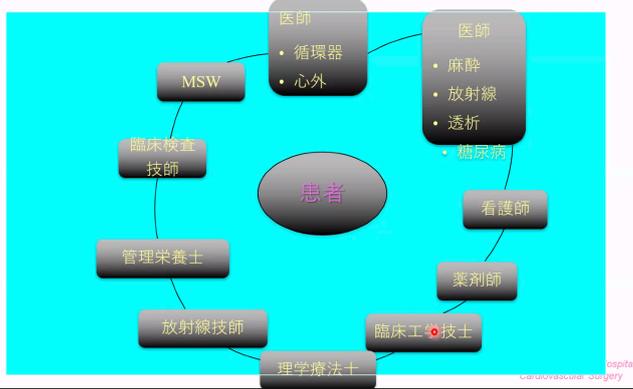
5. その他、実習全体を通して、来年度への提案、要望などがあれば自由にお答えください。

- ✓ できれば zoom ではなく、実際に現場を見ることができればもっといいと思います。
- ✓ 医療関係者との直接的な接触があればいいと思う。(今年度は COVID-19 のためどうしようもなかったと思う。)
- ✓ 実習の人数が少ないと発言しやすかった。
- ✓ もっと自己学習期間があってもいいと思いました。
- ✓ もう少しまとめる時間をください。
- ✓ 事後ワークショップの意義を丁寧に説明してほしい
- ✓ 医学部の方の割合が多すぎるようにも感じ、基本的に医師目線で話が進められた。
- ✓ 医学科以外も必修にすべき
- ✓ もう少し他の学科の人も参加してもらえるとより、話し合いが深まりそう。
- ✓ どうしても人数的に医学科が多くなるので仕方がないが他学科との議論ができるとうりよかった。
- ✓ 非常に有意義になる可能性が高いものだと感じていただけに、正直なところ医学科生がより主体的、精力的に参加するようになんらかの変更が必要と感じました。
- ✓ 発表はなくていいと思います。
- ✓ 付箋の強度をもう少し強くしてください。かなり弱かったです。
- ✓ 違う形態も検討していただけると幸いです。
- ✓ こういう機会をもう少し作った方がいいとおもった
- ✓ 楽しく学ぶことは出来たものの、1 回生での早期体験実習が医師になる上で必ずしも必要とは言えないのではないかと感じた。むしろ、専門科目などを学び、学生が将来の道を決める際に、こうした学生同士での話し合いがあれば、自分の道を自信を持って進めるのではないかと思う。

【コメント】

今年度は事後ワークショップを対面で開催することができたのですが、自己学習や Zoom での学習をもう一段深めるという点で課題が残ったといえます。実際に病院を訪れていないため、経験の共有というほど深まりきらず、薬学部や人間健康科学科の学生も限られていたため、学生にとってはやや物足りないと感じた人もいました。実習全体のテーマとして、チーム医療以外にも焦点を当てた目標やワークなども検討いたします。

ハートチームの構成

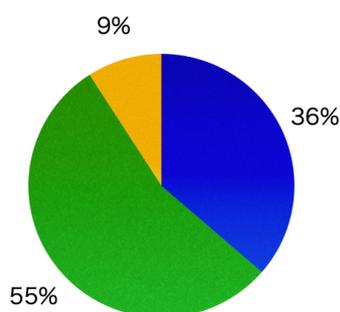


4. 協力医療機関からのフィードバック

4-1 本実習（動画視聴+Zoom セッション）は学生にとって有意義だったと思いますか？

【本実習は有意義か】

- とても有意義だった
- まあまあ有意義だった
- あまり有意義ではなかった
- まったく有意義ではなかった



- ・ 医療系学生に対するファーストエクスポージャーとしては、良い企画であった。
- ・ 医療従事者を目指す学生に対して、医療・看護の現状をお伝えできることは大変有意義でした。
- ・ 臨床現場の生の声を聞いてもらうことができました。
- ・ 事前学習と当日の質疑で、学生の方に一定の情報提供が可能になったと判断されるから
- ・ 事前学習（動画視聴）のみでは伝えきれない点を、オンライン質疑応答で補えたのではないかと思います。
- ・ 質問から医学及び医療に真摯に向かう姿勢を見ることができ、質疑応答よりもその一助になったように見えたためとなります。
- ・ 講義内容に肯定的、否定的含め熱心な質問があったため。
- ・ 比較的熱心に質疑応答があったと感じた
- ・ 大学 1 回生の方々と交流出来た、貴重な経験でした。

- ・ 本来、現場に来て肌で空気を感じて欲しいです。
- ・ 病院での各職種の仕事内容、多職種チーム医療を知るなら、実際の場面をみたほうが効果的

4-2 本年度の実習の良かった点をお答えください

- ・事前に質問内容を伝えて頂いたことから、学生のニーズを把握して準備の方向性を決めることが可能となった
- ・事前に質問を知らされており、回答者の選定準備ができました。
- ・前もって学生さんの質問をご教示頂いていたので、進行しやすかったです。
- ・WEBであるがファシリテーターの方が段取り良く采配していただいた。
- ・オンラインであることで学生が気兼ねなく質問できたこと
- ・学生本人の言葉で質問いただけたので、文字だけではわからない意図を掴むことができたので、大変良かったと思います。
- ・質疑が活発且つ熱心であり、意識の高さを感じた。
- ・学生とは活発で意義深いディスカッションを行うことができました。積極的に参加して下さった学生の皆さん、準備を整えてくださった医学教育・国際化推進センターの皆さま、ファシリテートして下さった恒藤先生のおかげです。
- ・手前みそになりますが、当院のメディカルチームの紹介ができたこと、各医療職の特徴などを伝えられたこと
- ・質疑応答から想像するに、学生さんにとって医師となった際の将来像が見える機会となったように見えました。また、多職種による医療の姿も見てもらえたと考えます。
- ・多くの医学生が参加頂けたこと。

4-3 本年度の実習の改善点についてお答えください

- ・もう少し参加者がいれば良かった。
- ・(当院側の時間配分も考慮すべきかもしれませんが)もう少し時間的余裕があればよかったと考えます。
- ・Webのせいか積極的な質問が少ない。今年は医学部生だけでしたが、他の学部生も参加してもらった方が多職種の意見が聞けて良いと思います。
- ・せつくなので医学生以外に薬学生、総合人間科学生にも参加頂けたらと思います。
- ・病院紹介のようになってしまったため、病院側が学習のねらいをもう少し検討する必要があった
- ・改善点ではなく、是非対面してやりたいですね。

4-4 実習全体に関して、その他、自由にご意見をお願いします

- ・早い段階で将来の職業について意識させるという点において、やりがいのある企画であった。
- ・医学生さんの考えを聞くことができ、私も学ぶことが多くありました。
- ・学生さんの輝ける未来をお祈りしております。良い医師や良い研究者になってください。
- ・このような機会をいただきありがとうございました。本実習が学生の皆様のお役に少しでも立てていれば幸いです。

- ・こちらからこれから医師になるであろう学生さんに言いたいことを並べて話しましたが、もっと積極的に質問頂ける空気作りができれば良かったです。
 - ・双方向で議論が出来ると、プレゼンテーションする側も充実して取り組むことが出来ます
 - ・コロナさえ改善すれば、現場に来てもらって五感を働かせて体験できるのですが、残念です。
 - ・新興感染症により見学が制限されているため、現場を見ていただけなかったのが残念です。
 - ・実際に見ていただけると、より医学及び医療への理解が深まると考えます。
- 他の施設がどんなビデオを作っているか見てみたいです。
- ・事前の質問に沿って説明したつもりだが、もっと質問を受けられるように説明を短くし、主体的に関わってもらえるようにすればよかったと反省しています。

【コメント】

今年度は Zoom 時に学生にビデオカメラをオンにして顔が見えるようにしてもらい、ファシリテーター側も学生に発言してもらうように事前質問を考えさせたり、進行を工夫するなどして一定程度改善できたかと思います。どうしても Zoom で限られた時間内であると、限界はあることも感じてはおります。特にオンライン形式であると、医学科以外の学生に参加していただけるように魅力や意義を伝える点は課題が残されておりますが、いろんな視点で質問したり発言してもらえるように取り組んでいきます。

5. 協力医療機関一覧

| 動画提供 |
|----------------|
| 大阪赤十字病院 |
| 大阪府済生会茨木病院 |
| 大阪府済生会野江病院 |
| 金井病院 |
| 京都桂病院 |
| 倉敷中央病院 |
| 神戸西病院 |
| 滋賀県立総合病院 |
| 市立島田市民病院 |
| 高槻赤十字病院 |
| 天理よろづ相談所病院 |
| 豊岡病院 |
| 日本バプテスト病院 |
| 仁和診療所 |
| 兵庫県立尼崎総合医療センター |
| 三菱京都病院 |

| Zoomセッション |
|------------|
| 大阪赤十字病院 |
| 大阪府済生会茨木病院 |
| 大津赤十字病院 |
| 金井病院 |
| 京都桂病院 |
| 滋賀県立総合病院 |
| 高松赤十字病院 |
| 枚方公済病院 |
| 和歌山医療センター |

編集後記

今年度も新型コロナウイルスの影響下での実施となりましたが、多くの医療機関のご協力を得て、三科合同の早期体験実習を行うことができました。現場での診療や業務などへの負担も大きい中、動画作成や Zoom での学生との対話など、多大なご協力をありがとうございました。オンラインでの開催も 3 回目となり、動画も充実し、自分の興味や関心にあわせて理解を深めた学生も多数みられました。

1 回生を現場に出させてあげたいという気持ちと、感染状況を踏まえながら 130 名近い学生を現場に問題なく送り出せるのかという気持ちで揺れ動きながらも、オンラインでの開催としてきました。学生から現場を体験したい、これは体験実習とはいえないのではないかという意見もその通りだと思いますし、現場の先生方からいただく実際に訪れて現場をみてほしいというご意見もありがたく受け止めております。今年度は、事後ワークショップを対面開催で実施しましたが、動画や Zoom での学びをそこからさらに深めるしかけの必要性も感じました。2 回生を対象にした早期体験実習 II では、希望者が感染対策のもとで京大病院内を見学できる機会を設けて、学生からも好評でした。状況をふまえながら、よりリアリティある学びに近づけられるよう引き続き検討してまいります。

学生の感想やレポートなどからは、現場の先生方からいただいたお言葉や視点が響いたというものが多くみられました。特に医師の心構えや日頃の働き方、職種間でお互いに求めるものなど、Zoom での対話の雰囲気も含めて感じ取ってもらえたのではないかと思います。引き続きオンラインを中心とした学びの機会になるかとは思いますが、学生が自身のキャリアや多職種連携などについて考えを深められるように努めます。いつも多大なご協力をいただいておりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2023 年 3 月

京都大学医学教育・国際化推進センター
京都大学医学部人間健康科学科
京都大学大学院薬学研究科

